

会 議 録 （要約版）

会議の名称	令和3年度 第2回弘前市上下水道事業経営審議会		
開催年月日	令和3年10月15日（金）		
開始・終了時刻	午前9時00分 から 午前10時10分 まで		
開催場所	弘前市役所岩木庁舎2階 多目的ホール		
議長の氏名	弘前大学人文社会科学部長 飯島 裕胤		
出席者	会長 飯島 裕胤	委員 船水 良之	委員 佐々木 公一
	委員 青木 智美	委員 齊藤 嘉春	委員 鶴ヶ谷 和子
	委員 山内 正治	委員 三上 敬子	
上下水道部職員 の職氏名	上下水道部長 坂田 一幸	総務課長 田中 知己	
	営業課長 柳田 尚美	工務課長 小野 敦弘	
	上水道施設課長 石川 竜明	下水道施設課長 本間 嘉章	
	総務課長補佐 中村 洋幸	営業課長補佐 成田 嘉光	
	工務課長補佐 田沢 司	工務課長補佐 奈良岡 健	
	上水道施設課長補佐 高松 誠	下水道施設課長補佐 丹代喜代一	
	上下水道部主幹 三上 敏彦	総務課主幹兼企画係長 西舘 俊樹	
	営業課主幹兼営業係長 廣田 恒央	営業課主幹兼給排水係長 寺田 貴幸	
	工務課主幹兼上水道建設係長 小山内 明	工務課主幹兼浄水場整備係長 鳴海 計哉	
	上水道施設課主幹兼浄水係長 藤田 貢	上水道施設課主幹兼上水管路維持係長 千葉 克人	
	下水道施設課主幹兼施設管理係長 中村 徹	下水道施設課主幹兼下水管路維持係長 小林 洋樹	
	総務課総務契約係長 対馬 真	総務課経理係長 八木橋達雄	
	工務課下水道建設係長 吉川 健志	上水道施設課水質係長 佐々木栄子	
	総務課企画係総括主査 佐々木真樹子	総務課総務契約係主査 小野 愛	
	総務課総務契約係主査 坪田 美紀	総務課総務契約係主事 古川 夏菜	
	総務課経理係主事 高橋 亮	総務課経理係主事 下林 明央	
	総務課企画係技師 早川 智貴	工務課浄水場整備係技師 野上 規朗	
会議の議題	【報告事項】 ・令和2年度弘前市上下水道事業会計の決算の概要について ・下水道事業アセットマネジメント計画策定業務の進捗状況について ・樋の口浄水場等建設事業の進捗状況について 【意見聴取】 ・弘前市総合計画後期基本計画策定に係る意見聴取について		
会議資料の名称	資料1 令和2年度水道事業会計及び下水道事業会計の決算の概要について 資料2 弘前市下水道事業アセットマネジメント計画について（経過報告） 資料3 樋の口浄水場等建設事業進捗報告 資料4 弘前市総合計画後期基本計画策定のための意見聴取について		

<p>会議内容 (発言者、 発言内容、 審議経過、 結論等)</p>	<p>1 開会 新委員の紹介</p> <p>2 上下水道部長挨拶</p> <p>3 報告</p> <p>(1) 令和2年度弘前市上下水道事業会計の決算の概要について ※資料1を基に、総務課より説明。</p> <p>(2) 下水道事業アセットマネジメント計画策定業務の進捗状況について ※資料2を基に、総務課より説明。</p> <p>(3) 樋の口浄水場等建設事業の進捗状況について ※資料3を基に、工務課より説明。</p> <p>4 その他</p> <p>(1) 弘前市総合計画後期基本計画策定に係る意見聴取について ※資料4を基に、総務課より説明。</p> <p>進行は議長（飯島会長） 各委員との質疑応答等は以下のとおり。</p> <p>【報告事項】</p> <p>(1) 令和2年度弘前市上下水道事業会計の決算の概要について</p> <p>青木委員 水道事業会計の内部留保資金残高の推移の年度当初残額発生額についてお聞きします。令和5年度以降発生額が増加に転じているのですが、その要因を教えてください。</p> <p>八木橋係長 水道料金の見直しを予定しているためです。</p> <p>青木委員 発生額が増加する要因は、水道料金が増加する、維持管理費が減少する、あるいは一般会計からの繰入金が増加する、その3つのどれかだと思っておりますが、主な増加の要因は、水道料金の増加ということで間違いはないですか。</p> <p>八木橋係長 一般会計から繰入金は概算ですが、ほぼ横ばいということ考えています。</p> <p>青木委員 それだと、6年度一旦上がって、7年度下がって、8年度また上がる、というのは、水道料金の増減による動きだということになります</p>
--	---

か。

八木橋係長

令和2年度予算から、予算編成にあたって、いわゆる経常経費的なものについては、シーリング枠というものを設けて、支出を抑えていくことを今後も継続していくと考えております。

青木委員

この質問をしたのは、水道料金が5年、6年、7年と上がっていくのかな、という単純な疑問で質問したのですけれども、今の説明だと、水道料金の増加によって発生額が増加していく、という理解で問題ないでしょうか。

八木橋係長

そうです。

佐々木委員

令和2年度水道事業会計決算の概要で、令和2年度末の内部留保資金残高が33.5億円で、不足分で補填するのが12.5億円。純利益が4.1億円、減価償却費が11.9億円で合計すると16億円になります。

3ページの水道事業会計の内部留保資金残高の推移と比較すると、2年度決算の年度末残額が33.5億円、使用額が12.5億円、発生額が17.8億円ですが、1ページの純利益と減価償却費を足したものが、内部留保資金の令和2年度末残高になるのではないのですか。

八木橋係長

令和元年度の純利益が、令和2年度の発生額に反映される形になります。令和2年度の純利益については、令和3年度の発生額に加わることになります。

時間を頂ければ、もう少し詳しく調べたいと思います。

(2) 下水道事業アセットマネジメント計画策定業務の進捗状況について

青木委員

7ページについて、竣工年度別整備量の圧送管・管種不明の所が、割と最近まで平成13年とかその辺まで結構あるのですが、不明な理由を教えてくださいたいのと、不明なことによって、今後のシミュレーションに何か影響を与えることはないのか、教えてください。

西舘主幹兼係長

不明な所については、工事が終わったら履歴を起こしているのです

が、その資料が見当たらないという所が、不明な管の延長に入っております。

それがシミュレーションの結果に与える影響というのは、確かにあるにはあると思いますが、アセットマネジメント計画を策定して、下水管の中にカメラを入れて調査をすることも想定しておりますので、その辺でまたシミュレーションの方に組み入れていくことになるかと思えます。

青木委員

予算を立てたり、事業内容を決めたりする時にも多少なりとも影響があると思いますが、そこに関しては、実際に工事をしてみないとわからない、というような状況だということですか。

西舘主幹兼係長

そうですね。工事する前の調査の段階で、その管種を判明させる、ということになるかと思えます。

飯島会長

そもそもの質問ですが、アセットマネジメントをやってみて、非常に莫大な投資が必要だ、ということが分かったのですが、これはアセットマネジメントをやらないと中々わかってこない部分なのですか。

西舘主幹兼係長

そうですね。今現在では、全体の資産数が正直あまり把握できていない、というところもありまして、それに対して今後、改築する時代に入ってきて、どのくらいお金がかかるか、という所になりまして、それでアセットマネジメント計画を策定した方がいいのではないか、という所で、今現在動いている所であります。

飯島会長

ポジティブに考えれば、アセットマネジメント計画を立てて良かったな、ということもあるし、ネガティブに言えば、もっと早く手を打てたかもしれない、ということになると思えます。

齊藤委員

コンクリート管は管渠更生工法、ということですが、この場合は、工事期間中は供用停止ということになりますか。

奈良岡課長補佐

管渠更生は、既設の管の中に新たに被覆をかけて、管の断面は少し小さくなるのですが、道路の掘り返しをしないで進めて行く工法にな

ります。

去年の実績を見ても、マンホールとマンホールの間は、だいたい 50 m ぐらいあるのですが、1 日で完成させています。住宅地でも一定時間止めさせてもらって、管の中に少し溜まる時間もありますが、ポンプアップ等で切り回しを行い、下水道管を使用しながら管の更新を図っていく工法となっていますので、お客様に与える負担というのは、少ないものとなっております。

三上委員

水道料金の見直しとありますが、段階的に上がるのか、それとも累計式に上がるのか、何年ぐらいまで上がるのか、いつまで経ったら落ち着くのか、等そういう見通しはあるのでしょうか。

西舘主幹兼係長

今まさにその検討作業を行っている所でありまして、その辺は次の経営審議会の時に説明できるかと思っております。

(3) 樋の口浄水場等建設事業の進捗状況について

三上委員

資料の方ですが、今スクリーンの画面が 9 ページ目になっているのですが、手元の資料だと、7 ページ目になっていますが、中抜けしている部分があったのではないのでしょうか、支障はないのでしょうか。

鳴海主幹兼係長

もし中抜けしていたら申し訳ありません。報告状況になりますので、抜けていても特に問題ないかと思いますが、今スクリーンで説明した資料が最新の写真の状況になります。

(1) 令和 2 年度弘前市上下水道事業会計の決算の概要について

飯島会長

少し戻って、(1) の令和 2 年度弘前市上下水道事業会計の決算の概要についての所で、質問のありました件につきまして、改めてお願いいたします。

八木橋係長

急で申し訳ございませんが、追加資料を配布させていただきます。先程質問のありました、内部留保資金残高の発生額の内訳ということですが、追加した資料の令和元年度の決算、黄色の蛍光ペンをしている部分を足して、それからオレンジの部分の引いた金額ということになれば、数字的には、16 億 6,682 万円となっております。

令和 2 年度の発生額の 17 億円の内訳ということになれば、追加資

料の令和2年度決算の方のマーカーされている部分、黄色い部分を足して、それからオレンジの部分を除いた金額で計算すれば、17億7,996万5千円という数字になります。

佐々木委員

3ページの発生額は、このような計算だということはわかりました。そうすれば、1、2ページの図の貯金についての金額はどうなりますか。

八木橋係長

令和2年度水道事業会計決算で示しました純利益4.1億円ですが、翌令和3年度の9月議会で、この決算が承認された時点で、初めて内部留保資金の方に入る流れになるので、半年ぐらいプールするような形になります。

議決を経て、初めて内部留保資金の方に入るなので、図ではすぐ入るかのように見えるかと思いますが、厳密には翌年度の9月の議会の承認を得た時点で入るという流れになります。

【意見聴取】

(1) 弘前市総合計画後期基本計画策定に係る意見聴取について

青木委員

弘前市総合計画の178ページ、施策成果指標の基準値と目標値、2018年度と2022年度とそれぞれ目標とする指標が定められているのですが、この定められている指標が、アンケートにより取得した理解度を指標として設定しているのですが、この指標が果たして適正なのかと思います。

計画事業を見ると、確かに市民の理解度向上を図ります、という取り組みがあるのですが、これに対する事業費というのは、弘前市総合計画前期実施計画を見ると、80万円程度だったと思います。それより圧倒的に多い、その上に書いてあるような施設の更新とかそのような事業の進捗を測るための指標の方が、むしろ重要なのではないかと、思います。

例えば174ページの道路事業を見てみると、指標として使われているのが、事業の進捗率を基準値と目標値として設定しているので、こういう指標の設定の仕方もあるのではないかと、思いました。

アンケートによる理解度というのが、もし仮に、施策の成果を測る指標として有効なのであれば、例えばPR会場に会場の方がどれくらいいて、どれくらいの方からアンケートを取得して、その結果指標として十分な効果がある、というようなことを検討した上で、この指標を使っているのであれば、もちろんそれでいいと思いますが、この事業に対しての指標として、今設定されている指標が有効なのかどう

か、少し疑問に思いました。

中村課長補佐

只今ご質問のありました、指標についてですが、総合計画の指標を設定するにあたって、今まで他の色々な計画についてですが、評価について、アウトプット指標とアウトカム指標、2つあると考えられています。

アウトプット指標というのは、青木委員がおっしゃったように、道路の方の整備進捗率、これはどういう事業を行って、その事業がどれだけ達成できたか、という風な直接的に数字として出てくるものになります。

アウトカム指標というのは、こういう事業を行いました、その結果どのような姿になったか、ということについてなのですが、直接事業の進捗とは別のものとして、私共の方で設定したような、それによって市民の生活がどういう風が変わっていったか、というものをアウトカム指標としております。

本来であれば、私共の目指す所は、安定した水道水の供給とそれによる市民生活の向上であります。これは管をどれだけ整備したか等が、直接目指す姿を現すものとは言いきれない所がございます。

そこで私共の方としては、市民の方がどれだけ満足しているか、あるいはどれだけ重要度を理解しているかということを探るために、このような理解度ということ指標として設定したものです。

ただ、今おっしゃられたような、十分に効果的かどうか、ということに関しては、今後の見直し作業を十分検討していきたい、と考えています。

飯島会長

ありがとうございます。貴重な意見だと思います。

客観的に聞かせていただくと、確かにPR事業での回答も重要だと思いますが、できるならば、安全で安定した水道水の供給や下水道の運用について聞けるような方法がいい訳ですよ。

つまり、重要性の理解度ということではなくて、市で供給しているものが、安全で安定したものであるか、ということについて何らかの指標があった方が、より望ましいかなと思います。

そのあたりご検討いただければと思います。市民がきちんと感じている、ということが重要なのかな、という風に思います。

今回の感想ですが、安全で安定した、ということは非常に重要だと思っていて、今の文脈で言うと、持続可能性ということについて、記載があった方がいいのではないかと、思っています。

つまり、先ほど工事の費用等がありました。これはどこかで負担しなければならぬが、それが突出して負担するということになる

	<p>と、持続可能性が危ぶまれる、市民の理解も得られないということになります。</p> <p>でも一方で、負担しなければならない部分は、それを如何に持続可能な形で持っていくのか、ということは、弘前市の上下水道部としての責務かな、と思います。</p> <p>現在、正にそれをやっている所だと思いますので、そのあたりも盛り込んでいってください。たぶん持続可能性とか持続性というのは、今の流れからすると、イメージ的に盛り込んでいいワードかなと思います。ご検討いただければと思います。</p> <p>5 閉会</p>
その他の事項	<ul style="list-style-type: none"> ・会議は公開。 ・報道機関取材は1社。